

第119回 有田国際陶磁展  
産業陶磁器部門 審査評

審査長 崔 宰熏

アフターコロナを迎え、人々のライフスタイルや価値観は大きく変化した。SNSによる個人消費の拡大や流通のダイレクト化、新素材の開発やデジタル技術による自由度の高い表現など、陶磁器産業にも大きな影響をもたらした。これらの状況を踏まえ、今回の出展作品に出会えることを楽しみに審査に入った。

産業陶磁器部門では、64名の出品者による82点の作品が応募された。前回に比べると出品点数は大幅に増加し、クオリティーが高く、また、多様化する生活者の価値観を捉え、陶磁器産業に新たな兆しを感じさせる作品を多く見る事ができた。

経済産業大臣賞に輝いた《流木 テーブルウェアセット》は、白マット釉に上絵転写を施した作品で、黒のタッチで描いた流木の先端に花のような色を挿すことで、生命を吹き込んでいる。四枚組で一つの絵になるプレートは、一枚ずつでも料理やシチュエーションに合わせて楽しむことができる。裏側にまで手を掛けた遊び心溢れる作品である。

佐賀県知事賞の《花器(染付山水文缶)》は、作者のコメントに「一つで美しくめぐる器として制作」したものと書かれている。大量生産される缶詰をモチーフに、伝統技法である染付で山水文を描いた作品。そのギャップがまたユニークである。この器に花を飾り眺めるとき、時代に対するメッセージを感じ取れるだろう。

有田町長賞を受賞した《重箱》は、自由な組み合わせで、食卓をより一層楽しめる四つ組のデザイン。表情豊かな黒マット釉と金・銀彩の調和は晴れの日の宴を飾るのに相応しい。天草陶土を再利用したサステナブルな器で現代らしい作品である。

今年より新設された有田商工会議所会頭賞の《瑠璃流し・水描》は、量産のプレートに瑠璃を重力や引力を用いて濃淡を描いたもので一つも同じ模様はない。余白も十分に使えるため、料理の盛り付けも楽しむことができ、器を躍動的に見せることができる。

昨年、有田を訪問した際、それぞれの窯元が持つノウハウと強みを活かし、新たに挑戦するスピリッツを強く感じた。また、伝統をリスペクトし、さらに進化させていく取組みを垣間見ることができた。

本展の開催目的である技術の競争と知識の増進は勿論、使う側と作る側、伝える側、商う側が互いに交流を深め、暮らしを豊かにする提案の場として発展し続けることを願う。今後、益々幅広い参加者が集い、多様な作品が互いを刺激し合う国際コンペとして、産業陶磁器の更なる発展に貢献するものとなることを期待する。

## 産業陶磁器部門

(50音順・敬称略)

| 氏 名                        | 所 属                                        | 備 考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| イマイ アキコ<br>今井 朗子           | 株式会社 世界文化社<br>執行役員                         | <p>学習院大学文学部国文学科卒業。<br/>世界文化社入社後、『家庭画報』編集部配属。<br/>その後、女性誌、ウェディング誌の編集長を経て、2004年より2009年まで『家庭画報』編集長をつとめる。</p> <p>現在は出版事業に加え、企業や団体のオウンドメディア運営、及び企業や団体が資産として保有する史資料のデジタル・アーカイブ事業も担当。</p> <p>2017年より、全国漆器協会主催「全国漆器展」の美術工芸品部門にて審査員をつとめる。</p>                                                                                                                                    |
| チェ ゼフン<br>崔 宰熏             | 愛知県立芸術大学<br>美術学部<br>デザイン・工芸科<br>陶磁専攻<br>教授 | <p>学歴：愛知県立芸術大学美術研究家デザイン専攻修了<br/>職歴：(株)INAX総合技術研究所サステナブル研究室<br/>(株)LIXIL WTJデザイン・新技術統括部ものづくり工房<br/>専門：プロダクトデザイン・陶磁器デザイン<br/>活動：2002年第6回国際陶磁器展美濃陶磁器デザイン部門グランプリ受賞、2014年第10回開催時には審査員となる。日本陶磁器デザイン協会に所属し、大学院研究室では人間の生活と陶磁器デザインの中で一人ひとりの持つ素質と個性に合わせた指導で産地との連携や産学協同の取組みなどによるリアルなものづくりを覚えデザインできる事を目指し。また、国際交流や発表の場を通して異なる文化や考え方を持つ人々と疎通し、自分の世界観を広げ将来の目標をつかむきっかけとなる指導を行っている。</p> |
| ヨシオカ ソウイチロウ<br>ウ<br>吉岡 總一郎 | 株式会社陶香堂<br>代表取締役                           | <p>東京都出身。<br/>他業種を数社経て2009年株式会社陶香堂入社。<br/>2019年より現職。<br/>昭和11年に創業、宮内庁御用達として長きに渡り、宮中へ納入。全国の飲食店、ホテル、寺社など幅広い販路を構えている。実用性を一番に考え、その時代に合わせて商品をプロデュースしている。海外販路開拓中。</p>                                                                                                                                                                                                         |